

タワラ島での慰霊祭



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦没者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢 3-11-3
 電話 東京 (424) 4300
 振替口座東京 0-93487 番
 編集兼発行人 浮田信家

ナウル・タラワ・マキンを目ざして

副会長 佐藤 宗 丕

その日の大本営発表を告げるラジオの声は沈痛を極めた。
 『タラワ島並ニマキン島守備ノ帝國海軍陸戦隊ハ十一月二十一日以来三千ノ寡兵ヲ以テ五万余ノ敵上陸軍ヲ邀撃、熾烈執拗ナル敵機ノ銃爆撃並ニ艦砲射撃ニ抗シ連日奮戦、我ニ数倍スル大損害ヲ与ヘツツ敵ノ有力ナル機動艦隊ヲ誘引シ友軍ノ海空戦ニ至大ノ寄与ヲナシ、十一月二十五日最後ノ突撃ヲ敢行全員玉碎セリ』
 指揮官ハ海軍少将柴崎恵次ナリ

尚両島ニ於テ守備部隊ニ終始協力奮戦セシ軍属一千五百名モ亦全員玉碎セリ』

開戦以来誰もが秘かに恐れていたことが起った。日本人すべてが襟を正し敵撃滅の誓いを新たにしたが、明けて十九年二月六日には、クェゼリン島、ルオット島の玉碎となり悲報は赫々たる戦果の報らせとあらはらに二十年八月迄続いた。

マーシャル諸島、ギルバート諸島海域に眠る三万余柱の英霊をお慰めすることを唯一の目的として設立された本会は、四十二年に浮田、佐竹の両役員をこの地域に派遣して現地慰霊を行った。その報告によって現地事情が明らかになったことにより、肉親の戦死の場所を確かめたいとの会員の願いは先づ五十年のクェゼリン墓参として実現した。参加者は当然同島の遺族であった。ギルバート諸島の遺族は、次回は是非とも、熱烈な要望を本会に託していたが、機熟して近々中に多年の願いが叶えられることとなった。

戦後三十年を経て今尚、開戦の是非、戦争指導の適否が論ぜられ、今年には又、沖縄の基地問題や北方四島に絡む漁業問題が同時に起って、敗戦の精算の厳しさを思い知らされる年となった。

難しい政治向きのこととはさておき、我々は只、今次慰霊団全員が我が父我が夫我が子が国家と民族の永遠の発展を念じつつ護国の華と散った赤道直下の孤島で、心静かに鎮魂の祈りを捧げ全員無事帰国されることをお祈りするのみである。

目次

ナウル・タラワ・マキンを
目ざして……副会長佐藤 宗丕(1)
 本年の現地慰霊
行動予定ほか 事務局(2)
 敬 弔………浮田 信家(3)
 具志牧師の思い出……星 野玄一(3)
 遺族会を探し当てたその喜び
………石賀 宗美(4)
 司令官ほか交迭………事務局(5)
 篤行―自宅に慰霊碑建立
………事務局(5)
 来信三通………大里 清(6)
 ……薬師寺理助(6)
 ……浦郷 久之(6)
 戦記シリーズ
シリーズの15・16・17・18頁
 昭和52年2月6日
 ……の行事報告……事務局(7)
 昭和51年度決算報告………(8)
 昭和52年度予算………(8)
 寄付者芳名………(9)
 事務局だより………(12)

本年の現地慰霊行動予定ほか

事務局

一 行動予定

環礁26号で募集したナウル、ギルバ
ト現地慰霊の参加希望者は総計25名
となった。関係官署、旅行社、ホテル
等と交渉の結果左記のとおり行動予定
を決定し、諸準備を進めている。

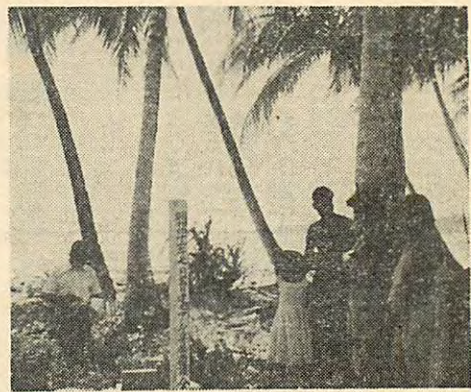
- 8・10 ○九四五 東京空港発
- 〃 〃 一四一〇 グラム空港着 泊
- 8・11 ○六一五 グラム空港発
- 〃 〃 一二二〇 ナウル空港着
- 〃 〃 現地関係官署等訪問・挨拶泊
- 8・12 現地慰霊、戦跡視察 泊
- 8・13 一〇二五 ナウル空港発
- 〃 〃 一二〇五 タラワ空港着 泊
- 8・13 現地関係官署等訪問・挨拶
現地慰霊・戦跡視察
- 8・19 マキン島に一泊行事
- 8・20 一二三タラワ空港発
- 〃 〃 一三一五ナウル空港着
- 〃 〃 一四〇〇ナウル空港発
- 〃 〃 一六〇五グラム空港着
- 8・21 一五二〇グラム空港発
- 〃 〃 一七五五東京空港帰着解散
- ナウル組は8月10日の東京空港発から
12日迄は同一行動。13日以後別行動
- 8・13 一四〇〇ナウル空港発
- 〃 〃 一六〇五グラム空港着

8・14 一五二〇グラム空港発
〃 一七五五東京空港帰着解散

二 十年前の思い出
(一) タラワ島
内地出発前何回か日英大使館及
び在日英国総領事を訪問し連絡した甲
斐あって昭和42年7月22日タラワ島に
上陸し政庁を訪問したときは建碑、慰
霊の地点、戦跡視察のスケジュールは
定められてあり、B・Fウィーク総督
からも戦後最初の日本からの訪問者と
して歓迎の挨拶をうけた。

(二) マキン島
建碑地点は上陸場近くで、近い将来
日英米合同の慰霊碑建立予定地、そこ
に建立し、祭壇を設け、内地から持参
の供物を供え、林会長の祭文を奉読
し、焼香、礼拝して柴崎司令官以下四
四五五柱の冥福を祈った。政庁要員、
参列島民の心こもった礼拝もうけた。
あとウィーク総督自身の運転で島内戦
跡視察を了え、埠頭で別れを告げた。

(三) マキン島
当日はタラワ錨地に一泊し、翌朝上
陸員を収容後タラワを出港、24日早朝
マキン環礁ブタリタリ島沖に投錨。前
日ウィークス総督から、ラジオ放送に
より指令をうけていた大酋長ピノウエ
ア、シユターケさんはじめ政府首脳の



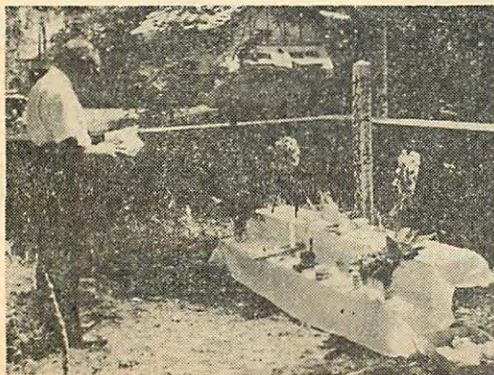
マキン島での慰霊祭

四名が迎えのため来船、歓迎の挨拶を
うけ、早速上陸した。24年前金光指揮
官等埋葬したという礁湖側、突端から
西方三百米の場所に予め定めてありこ
こに碑を建て祭文を奉読して戦歿英霊
の霊を慰めた。

(三) ナウル島
7月27日乗船ラリック、ラタック号
はナウル島に投錨。当時ナウル島は濠
州領であり総督は、L・Dキング氏。
28日訪問。建碑場所につき総督が島民
と協議の結果外国人墓地に決定。31日
午前建碑を完了の後慰霊祭を行う。祭
文を捧げ三〇四余柱の冥福を祈って焼
香した。政府要員新旧教会神父報道関
係員等参列。真摯の礼拝を受け式を終
る。

三 今回の参加者

- ナウル共和国関係
- 群馬 土岐 正 東京 今成秀成
- 神奈川 江村源次 長崎 香月正紀
- ギルバート諸島関係
- 北海道 下里 昭 青森 塚原ハナ
- 群馬 井田直忠 静岡 伊藤博美
- 福岡 太田 清
- 千葉 桜井一正 津久井艶子 谷沢英子
- 神奈川 神奈川 安藤サヨ
- 東京 浮田信家 佐藤宗丕 浮田桜代
- 荻島佐吉 小柳津基 小作イキ
- 中島 剛 長尾静子 星川 武
- 水野はな 中島新之丞



ナウル島での慰霊祭

敬 弔

会 長 浮 田 信 家

○3月23日渋谷の山口四郎様(顧問古賀織之助様長女裕子様女婿)から、「今冬は寒気厳しく漸く梅一輪開いた三月一日古賀織之助には満九十才の天寿を全うして永眠致しました。健康に恵まれて、明治大正昭和の長い間皆様方の御蔭をもって歩んで参れました。生前の御厚情を心から感謝し、深く深く御礼を申し上げます。葬儀は三月四日自宅にて相済ませました。」

何時お目にかかって、笑顔をもってお会い下され、しかも葉隠武士らしい御信念に私淑し、事ある毎に大山町の御自宅に或は交詢社にお訊ねして御指示をいただきました。

本会創立の時は当時林会長を補佐され、環礁第1号には所信のほどを筆に托され、雑感と題し「会員同志何時までも心を通わせ乍ら生きぬくことを説



故古賀織之助様

かれ、役員会の場合会長代理として必ず御出席下さり、何かと御熱心なご指導をいただきました。昭和41年春私を交詢社に招かれ「私も近く80才になる。副会長に相応しい仕事をする能力も薄れるので辞任したき旨会長に伝えられたし」ということであった。御話中屢、御翻意を願ったが、「私の気持ちに許さないので是非」といわれやむなく、会長にお届けし、了解を得ました。その後昭和46年秋顧問就任をお願いし御快諾を得て今日に及びました。

○3月5日唐津市の山田雪子様から「母山田文2月27日午前八時三十分、心不全のため急逝致しました。」

ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご通知申し上げます。なお葬儀は3月1日自宅にて執り行いました。」



故山田 文様

お馴染みの少ない方もあろうかと思いますが、ルオット島に司令部をおいて奮戦された第24航空戦隊司令官山田道行海軍中将の御夫人で、本会創立当時から御支援下さり何かと御指導いただきました。その御達筆がチェンバレン夫人を通じルオット島の主と称せられる米國退役陸軍大佐F・H・セルフニー氏の敬意をうけられました。ルオットの日本人墓地はセルフニー氏独力で建立し、この供花、清掃も同大佐の発心からと聞きましたが、山田夫人の蔭のお力が伺われます。

○3月10日マジユロの山村要様から航空便で、次のお知らせがあった。

「会員の皆様方お変わりはありませんか。私達同胞一同はお蔭をもって相変らず元気です。ただ今朝早く具志忠太郎様が永眠されました。私達にとってはとても大きな悲しみではあります。これも人間の免がれぬ運命として諦められています。右お知らせ申し上げます。」

具志牧師の思い出

日本基督教団鶴川学院

農村伝道神学校 室 野 玄 一

具志先生が当校に来られたのは昭和45年4月から翌年3月までの一年間でありましたが、初対面から誠実なお人柄が伺える方でした。沖縄出身の方であらうという事で、沖縄と少し関係をもっていた私は親しい友人を迎えた思いで氏を迎えたのでした。氏は大きな

希望をもってマーシャル諸島に渡られたのでしたが、戦争で初志は阻まれ、島に残される運命となったように伺っています。その中伝道師であられた奥様との関係で御自身も伝道に打込まれるようになったと聞いています。

先生はただ伝道という事だけでなく島内の唯一の産物とも云うべきコブラの搾油から、油脂の利用による石鹼の製造など、当地滞在中も研究され、それぞれの製造所などにも連絡をはかっているようでした。又時にはマーシャル諸島の生活を話してくれ30分一時間もすれば、大きなマグロの2匹位は捕獲できるのでたらぶく、食べられることと日本に来て刺身を食べるのは全く味気ないと申されておりました。島の生活は文化からは離れていても、本当に楽しい生活であることを話して下さいました。

故具志忠太郎様



時には沖縄にも触れて語られました。が、今は望郷の念はないようで、むしろマーシャル諸島特にミレ島の将来に對する夢を大きくもち、若者のように希望の炎を燃やして居られました。

遺族会を探し当てたその喜び

—その六(続)

鳥取 石賀 宗美

19・4・1 右以外の者62警備隊へ、一時転勤を命ぜられた。これでヤルト島に文字通り釘付けになって仕舞ったので、部下にも、その様に訓示して自覚を促がした。その頃から長期持久戦に備えて、この島で陸上戦闘が始まれば最善戦して40日と司令以下幕僚は見当をつけた。これだけ分の米を空ドラム缶に詰めてイミエジ(基地の有る島)南隣のアイネマン島に埋没保存し現地食に切替えられた。

現地食、只の三文字で簡単ですけれども、この生活は並大抵ではありませんでした。それでも二千百カロリはあるとか。気がついて見たときには、イミエジ島には、常緑の葉は爆撃と食用で皆無になってしまっていた。入江に出来たアワミドリを採って佃煮にして食した。海苔の味が一寸するものでしたから海苔の一種でしょうか。蜂の巣のような弾痕を賽の河原で鬼連に荒らされながら時間をかけて整地をしては一坪農園をつくり内地から持ち込んでいた土の中に種が混じっていたらしいピーナ(私達郷土ではスベラピーと呼んでいる)と称する雑草が播種後20日

位で収穫出来るし、自花授粉的に種もよく実り繁殖力旺盛でしたので、これを作るのが随分急速にはやり、各自真剣に取組んだ。間もなく供出義務制度もとられてうまく運用された。

それから不毛のリーフ上に作物を作るには、たいして出もしない排泄物も貴重な肥料でやたら野糞ならぬ海藻も粗末に出来なかつた。又不発弾の火薬を取出して代用肥料とすれば、実に良く作物が出来るのも新発見だった。これは火薬の中には安定剤として濃縮した窒素が加えてあるからでしょう。

南瓜の蔓を先端20匁位に切って移植繁殖する方法もこの時に知った。

茄子は適当な時機に根元から再芽すると何年でも連続して実のるが、内地では、茄子にあだ花はないというが、島では大きな蟻は沢山居ても人工交配を入念に行わなければ全く実のらないには参った。

動物の方で先づ槍玉に揚げられたのは豚(予定のコース)、犬。食後従兵から今日の肉は犬だったと聞かされた時には一寸気味が悪かったが、背に腹は替えられなかつた。

着任時にはあれ程いた筈の鼠・蜥蜴・ヤモリなど何時の間にやら影をひそめていた。感心に猫だけが、引揚時一

正見受けたかに思います、夢だったのでしょいか。

それから零式水上戦闘機が25機機銃陣地でも狙ったのでしょいか。棧橋附近の海面に落弾で小アジ等沢山白く浮上したので、これをとって来て、アジ等でも食した人は、中毒(シビレ)にかかつたとか。敵弾にやられるのは仕方がないが、こんなのによられてはクワバラクワバラ。

本部からの食糧増産で命令され我隊からも凍田上曹、石森一整曹を各隊長とする二隊を派遣した。

具体的な計画食糧増産計画で、チャカロー隊(椰子蜜採取隊)、農耕隊(南瓜、瓜類等耕作一後に敵機の察知するところとなり荒されたとか)、魚猟隊(ダイナマイトで魚を獲り燻製等にす)が編成された。

18年7・8月頃迄連日連夜の猛爆撃が続いたがその後少しく下火となるも、それでも午前・午後2回数機編隊が大型爆弾をかかえて我受信所をめがけ投下して行った。この時分から木造兵舎の基礎ブロックを屋上に引揚げて補強を実施しました。この頃からの敵空襲を定期だと通称的に云うようになったが、この定期の増産やら補強作業ですの並大抵ではありませんでした。

又対空戦闘部隊、特に25耗聯装機銃隊も良く戦いました。其戦果は赫々、目覚ましいものがありました。それだ

けに、敵の集中攻撃も受け、何回もの直撃弾、至近弾を受けて、隊員も全滅し、幾度か総交代したとか。又機銃その物も幾度かの直撃弾でバラバラに破損したものを、優秀な呉海軍工廠工員の手で補修されて、応戦に間に合せた由。

これも偏に素晴らしい指揮統率振りだった升田仁助海軍少将の下に戦って来た賜と只々感謝の至りですが、残念乍ら終戦時戦犯関係で自決されたことは、返す返すも残念で、未亡人も既にご他界のため、去る2月6日も、御遺族のお方がどなたもお見えにならないことは淋しさ一入でした。

それから私として忘れてはならないのは、ついに我が隊にも戦傷者を出してしまったことです。

終戦の十数日前の敵爆撃で、本部に連絡に行かせていた電信員水兵長の荒木三郎君が手に手に被弾、負傷度は比較的軽かったが運悪く破傷風という。一週間程で口が開かなくなつて軍医官も大あわて、ワクチンはあるが保存期間が過ぎていて無効だとか。アンチテタネスを連続注射すれば全快するのだが、これでは命があぶないと軍医官はいう。物も言えないまてになつて気をもませたものだが、運のあるものは冥利なもので、間もなく終戦となり占領のため入港した米軍駆逐艦からアンチテタネスを受入れて注射し、病院船水川丸に入院させてホットしたこと

があまりす(荒木氏は復員後12月15日退院、博多地方上陸地連絡所運航班内特別輸送艦択捉電信室勤務の由)記事が随分飛び飛びになりますが、このように軍人・軍属・島民共打って一丸となつて増産に励んだため、一ヶ月も経たない内にカロリーは増給食され、二―三ヶ月も経過した頃は余裕さえ出来てタカマイ(椰子蜜を三分の一位に濃縮すれば乳白色のものが、赤褐色の餡色になり、其の又三分の一度まで濃縮すれば固形化するものにコブラの賽の目切りにしたものを加えたもの、よく駄菓子にある豆とちのようなもの)等空ドラム缶につめてアイネマン島に陸戦時の応急食として保存されるまでに裕福になっていました。

これら応急食は終戦の日から毎日給食され、ミレ・ウオッゼからの引揚者からうらやましがられ、我々の誇でもあり、且又復員帰宅後砂糖糖気のなかった自宅の家族からも喜ばれました。

これも偏に健剛老将升田仁助海軍少将司令指揮下のヤルト島で派遣員として終戦を迎えることが出来た奇蹟的な因縁の賜で昭和世代の苦勞難儀を此上なく経験した浦島太郎でありました。

元九五二空では准士官以上は私人が生き残って至極頼りなく、淋しく思つておりましたが、ブラウン島からの引揚者中遠間飛曹長はトラック島で戦死したが、川村飛曹長は重傷入院と知

らされて、勇氣百倍。これまで高田源次郎氏の便りで知り得ましたが、ブラウン島から引揚げた整備兵曹長以下はどうだかわかりませんが、こうなれば片端からとも考えて見たり、一方戦死者の方から逆算的に調査してみても思い御協力方お願い申し上げます。勝手な申し上げようですが、元九五二海軍航空隊玉砕時の戦死者名簿でもございましたら、その写並に生存者氏名住所お判りでしたら、お手数で恐れ入りますけれども、お知らせ下さいませんでしょうか。

この会(マージナル方面遺族会旧クエゼリン方面戦歿者遺族会)のあることをもっと早く知って居れば20年祭には是非共参加して御供養の一端にでもと思つて居りましたが、存じないままに30年もの年月が流れてしまひ残念と云うよりもむしろうらめしくありません。何しろ零細農家で農作業のみに追われ来た私の戦後生活こそうらめしく、なさない次第です。

私は無学で美文は書けません。実際の戦闘状態等は62警備隊司令の副官的任務をなさっていた元海軍大尉湯沢省吾なる人の手記で「暗い波濤」に、詳しく書かれていますので、私は我が隊に關係のある部分を概略実際の記録に基づいて生活面を主体に申し上げます。何かの御参考になればどんなにかうれしいことでしょう。

クエゼリン環礁近況

司令官、連絡官交迭

事務局

去る6月13日クエゼリンの中田勇様から次の便りがあった。

「お便りありがとうございます。久しぶりで皆様にお目にかかりたく思っています。今のところ日本行の予定はありません。」

クエゼリンは一昨年おいでになったときと変わらぬ。ここに眠る英霊は、一昨年の御来拜に感謝し会員ご一同の御健康と御多幸をお護り下さつておいでと存じます。

ルッセル司令官とビーバー連絡官は一昨年あなた方お会いになつて間もなく転任され後任にはバン・ネット大佐が司令官に、R・E・ハーレー氏が連絡官として赴任して来られました。皆様の御健康をお祈りします。」

篤行！自宅に

タラワ慰霊碑建立

事務局

昨年12月15日福岡県鞍手郡小竹町の太田清様から次の手紙が届いた。

「実は今年タラワ島の玉砕後33年目に当りますので先年貴会から頂いたタラワの霊砂を中心に納めた慰霊碑を、私個人で建立することを発心しまし

た。本年四月福岡県職員を定年退職致しました際、些少ながら退職金を受けましたので、かねての念願を實行にうつし、去る11月25日「タラワ島戦歿者忠魂慰霊碑」を建立、除幕式と慰霊祭を執り行い、戦歿英霊のご冥福を祈りました。当日は県内のタラワ島御遺族をお案内したところ皆様ご参列下さいましたので、盛大に行われ、英霊をお慰めできました。

当日の写真を添へ御報告致します。」

自宅に建立のタラワ島戦歿者慰霊碑



左端が太田清様

来 信 三 通

クエゼリン島 大里 清

まさえ

明けまして御目出度う御座います。昨年日本にまいりました時には、たいへんお世話様になりました。その後お元気でしょうか。長い事ごぶさたして本当にすみません。

主人は元気になりました。クエゼリンでは今雨がふらないので風ひきばかりです。12月1日が私たちの結婚四十年でしたから四日の日パーティーを催し、三百人のお客をよびました。写真が出来ましたら送ります。

今年六月アメリカの方にあそびに行くつもりです。

一月十五日(一・24受) まさえ

清

宛名 mr. & Mrs. Kiyoshi Osato

Box 3 5 1

APO San Francisco 96555

岡山県 薬師寺理助

謹んで新春のお慶びを申し上げます。年の暮も押しつまして、大変唐突なお電話をいたしたにもかかわらず

ませず、種々御教示賜りました上早々に思いもかけず「環礁」創刊号からオール、バック、ナンバー、それも立派に編冊されたものをお送りいただき、

さらにはマーシャル諸島採集の貝や砂までお分ちいただき、誠に感謝の外はございません。早速亡父母、亡兄の霊前に供え、詳細報告いたしましたような次第でございます。

それに又、前後致しまして山口市の嘉村様よりお便りを拝受いたしました。嘉村様はタロア島では攻撃隊司令であった由。私にとり、誠に得がたい方からのお便りでございます。大変御親切なお尋ねをいただきましたので、この便りと同時に、嘉村様にも御返事申し上げ、何かまたお知らせ願える手存じている次第でございます。

亡兄薬師寺立男は19年3月31日に戦死しましたが、父は兄の戦死については戦死日の外は、「内南洋方面において戦死」としか知らぬまま、35年春にこの世を去りました。

戦後郷里の村に遺族会ができる間もなく、そしてそれ以来父は近くまでその会長をつとめ、恰もそれが生き甲斐のように遺家族の世話役をしていました。ただだけに、後もう暫く生きて、このマーシャル方面遺族会のことやら、兄の戦死の地等を、知ることができたなら、どんなに喜んだことかと思つたのでございました。

昨春亡父の十七回忌と亡兄の三十三回忌の法要を営むに当りまして、岡山県援護課を通じて、やっとマーシャル諸島マロエラップ環礁タロア島に

於て戦死の旨を知ることができ、親族一同にその際報告したような次第でございましたが、今回の環礁を知りましたのを機会に改めて一段と詳しく霊前に報告できますことを、心から感謝しているところでございます。

これを機会に、今後私も皆様の仲間入りをさせていただき亡兄の弔いをしてやりたく存じていますので、何かとよろしくお願いする次第でございます。誠に有難うございました。

(岡山県庁民生労働部厚生課長)

佐賀県 浦郷 久之

謹啓 初めにお便り差し上げます。が、御尊名は、ふとしたことから、靖国神社から紹介していただきました。

実は私達は元海軍第62警備隊の隊員で、昭和46年から、ヤルリート会と称する戦友会を組織し、毎年集会を重ね、旧交をあたため、戦死将士の慰霊を行い、戦後私等のあり方を誤りなからしめんと、お互いの親睦を通じて戒め合っています。

今年も二月九日十日に別府市で、第六回大会を開催した際、ある元隊員が二月八日靖国神社に参拝したら、ヤルリート戦死者の慰霊祭が二、三日前にあつたらしいとのこと聞いたので、一体どなたが、その祭典をして下さったのか不思議に思い、靖国神社に訊ねましたらマーシャル方面遺族会とのこと。そしてあなた様の住所氏名をお知らせ

下さいました。

その後鳥取県倉吉市の石賀宗美様、長崎県佐世保市の林文枝様などから、そちら様のことを断片的に手紙により承知した次第でした。

すでに御熟知の御事と考えますが、62警備隊は、升田海軍少将が司令として、捕虜処刑の最高責任をとられ、自ら引責自決をせられ、戦犯将士30数名の身代りとなられました。又陸海軍将士をよくまとめられ、糧食欠乏の時によく現地自活の実をあげ、米食杜絶八ヶ月、最後迄一名の餓死者も出さず、連日の敵機爆撃に抵抗を続けました。升田司令の御徳は私たち一同深く深く感銘しているところでございます。

つきましては林文枝氏から知らされましたが、マーシャル方面遺族会名簿を刊行なされたとのこと、余部あれば是非一部を御分譲頂けないでしょうか。62警の戦死者名簿は伍長室関係の一兵曹がヤルリート引揚のとき嚴重な米軍側の手廻品検査をぐぐりコッソリと持帰ったのがあり計一八九名ですが18年11月21日以降終戦迄の分で62警前身の51警編成以来の戦死者は含まれていません。厚生省援護局に昭和45年頃遺家族居住地の調査を申ししましたが、拒否されて知る術もありません。ヤルリート会でも各県廻りもちで年次大会を開催していますが、せめて開催地近郊の方々には参会を呼びかけたい希望をもっています。(ヤルリート会会員)

昭和52年2月6日前後の行事報告

事務局

2月5日の前夜祭は、会場の都合で東京青山会館で行った。予報どおり今夏にはナウル島タラワ島マキン島を訪れ現地慰霊を計画のため、前夜祭には最近或は過去に訪問又はこの地で従軍された方々に御出席いただきお話を承ることに重点を置いて行った。

昨年11月現地を訪れた松下竜二会員のお話や現地アルバム、日本交通公社の西田添乗員のお話など、大いに参考となった。(参加者五二名)

2月6日 9時受付というに、7時すぎからつめかける方もあり、お元氣ななつかしい顔が神社参集所に溢れる。今年は例年と順序を変え10時に定期総会を開いた。(議長は佐藤副会長)

一、会務報告(浮田会長)

二、決算報告(井上常任幹事) 別項

三、監査報告(末広監事)

以上一括上提し報告を承認した。

四、会務計画(浮田会長)

8月にナウル、タラワ、マキンの各島に現地慰霊団を送る。参加資格は会員であるなしを問はず、と説明し了承された。

五、予算案(井上常任幹事) 別項

53年度より会費を二千円とする。一人の戦死者に二世帯以上の遺族のあるときは、会報発送の経費も

考へ、世帯毎に会員登録をしてほしいと述べ、了承された。

六、役員選任(浮田会長)

荒木常子会員を常任幹事に、昼間楽平会員を監事に、その他全員再任と提案し、その通り可決選任された。

以上で議事のすべてを終了した。

11時、全員列を組んで拜殿に参入し、例年の通り慰霊祭を行う。本殿に昇って御鏡の前に正座すれば、自ずとなつかしの顔がそして声までが、幾度同じ場所に来て、その都度新たな感銘を受け心を新たにするのは、この御本殿である。

正に聖地聖境と謂うべきか。(佐藤)

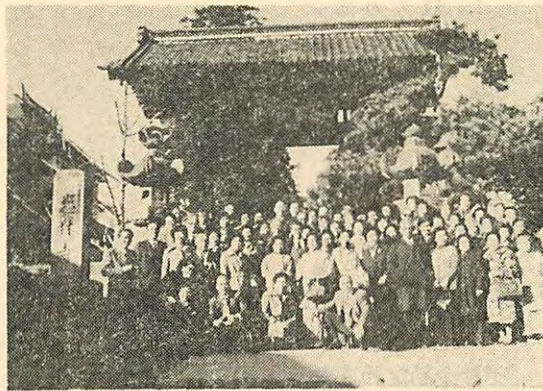
直会旅行

直会旅行は八回目になりました。

七〇人が五〇人乗りのバス二台に乗るのでとてもゆっくりです。弁当、おやつ、飲物を積み込んで正午九段を出発し、首都高速から中央高速を山梨県に向いました。2月なのに空は青く、車内は暖かで絶好の旅行日和です。

顔なじみの多いせいもあり、酒の香も手伝ってホンワカムード一杯です。豪雪の北陸、東北から夜行でかけつけた方は別の国に来たようだといいま。富士山が出迎へてくれました。ブ

ドーの町勝沼を経て塩山の恵林寺に着きました。武田家と縁の深いこの寺には甲斐の歴史が刻み込まれています。夢窓国師作の庭園もすばらしく、宝物館でもっと時間がほしいと思えました。バスは、笛吹川畔を下って石和温泉のホテル八田に到着。ジャングル風呂で連日の疲れを癒してから大広間でなごやかな直会です。



恵林寺山門にて

料理は満点酒は豊富、歌に踊りに手品に、興はつきません。

翌7日は昇仙峡に直行し奇巖怪石をカメラに収め、甲府に戻って武田神社(車中)から宝石会館に着きました。東洋一といわれる宝石博物館で、世界の宝石の数々に目の保養をし、即売場で今日の記念に、家族へのおみやげに

と指輪、ネックレス、ペンダント等が大変な人気でした。

外国で買って来た指輪やネックレスは細工が悪いので使う前に甲府に持ってきて細工のしなおしをする人もあると云う話を聞き私も思い当ることがありました。宝石の原石こそ今は産出しませんが、加工、細工の点では甲府は依然宝石の都だと感じました。

中食は広々とした小松遊覧農場のブリックランドで、ステーションをしながらというデラックスさ。

コースの最後は勝沼のマンズワイン工場です。先ず映画を見せて頂きお話を聞き工場内部を一巡して、ワインの飲み方を現物付で教はり、直売所で又々おみやげも増えました。

口当りのよいワインにツイ適量を過ぎた人もいたようで、帰りのバスは賑やか、なごやかなこと。一昨年、クエゼリン島墓参のときマジエロで覚えた「あの椰子の島」を合唱し、東京に着く迄楽しさが続きました。

今年には篤志会員の木下甫様、戦友有志の竹内政信様、高橋正吉様、林森一様の四人が参加されましたが、みんな一つ空気にとけこんで初対面とは思えません。

高橋さんが、「遺族会の旅行がこんなに愉快に楽しく続けられていたとは思ってもよらなかった」と洩らしていました。(佐竹)

第 13 期 決 算 報 告 書

(自51.1.1 至51.12.31)

一般会計第14期予算

(自52.1.1 至52.12.31)

一般会計 収入の部

科 目	金 額
前期繰越正味資産	261,076
同 預り金	461,000
同 前受会費	407,000
過年度分会費	169,000
現年度分会費	469,000
受 取 利 息	125,497
寄 附 金	1,647,370
雑 収 入	25,000
次年度分前受会費	361,000
同 預り金	507,200
計	4,433,143

一般会計 資産内訳

摘 要	金 額
現 金	8,120
普通預金	1,105,173
定額貯金	200,000
振替貯金	120,234
計	1,433,527
後期繰越預り金	507,200
同 前受会費	361,000
計	868,200
差引正味資産	565,327

収入の部

科 目	金 額
前期繰越正味資産	565,327
同 預り金	507,200
同 前受会費	361,000
現年度会費	700,000
寄 附 金	1,700,000
受 取 利 息	150,000
雑 収 入	30,000
計	4,013,527

一般会計 支出の部

科 目	金 額
慰 霊 費	56,000
運 営 費	1,465,335
刊 行 費	471,990
印 刷 費	12,570
通 信 費	54,694
事務所借用費	217,160
振替払込料	33,890
事務用品費	44,731
会 議 費	28,376
雑 費	3,250
予 備 費	50,620
退職金勘定繰入	100,000
前期繰越預り金	461,000
後期繰越預り金	507,200
同 前受会費	361,000
同 正味資産	565,327
計	4,433,143

特別会計収支計算書

1. 収入の部	
前期繰越	1,500,000
2. 支出の部	0
3. 次期繰越	1,500,000
内訳	
普通預金	0
定額貯金	1,500,000
	1,500,000

退職金勘定計算書

1. 収入の部	
一般会計より繰入	100,000
2. 支出の部	0
3. 次期繰越	100,000
内訳	
定額貯金	100,000

支出の部

科 目	金 額
慰 霊 費	80,000
運 営 費	1,800,000
刊 行 費	700,000
印 刷 費	20,000
通 信 費	100,000
事務所借用費	300,000
振替払込料	50,000
事務用品費	60,000
会 議 費	100,000
雑 費	20,000
予 備 費	50,000
退職金勘定繰入	100,000
前期繰越預り金	507,200
次期繰越正味資産	126,327
計	4,013,527

寄付者芳名

(五四三名)

環礁25号で会費値上げにつきお諮りし、26号でこれに対する回答を発表致しましたところ寄付者数は昭和42年の現地派遣員派遣の頃の数につぐ五四三名にのぼる御寄付を戴きました。このため総会時本年から年額二千円とする多数意見に拘らず値上げ時機を明年に譲決して戴きました。

事ある毎に挙って御協力下さる皆様の御芳志に役職員一同感謝し、この上とも恩恵の誠をつづけて参りたいと決意を固めました。

昭和51年11月1日から昭和52年5月31日までに入金の分)

篤志会員その他

- 一六〇〇〇 元九五二航空隊有志殿
- 一〇〇〇〇 ナウル島主計会殿
- 八〇〇〇 ナウル島四高会殿
- 六〇〇〇 鈴木 寅雄殿
- 五〇〇〇 瀬沼 光久殿
- 〇〇〇〇 嘉賀坂四郎殿
- 〇〇〇〇 小賀坂四郎殿
- 〇〇〇〇 高田源次郎殿
- 三〇〇〇〇 ロヂャーベリンヂャー殿
- 〇〇〇〇 井上 義夫殿
- 〇〇〇〇 金子 英郎殿
- 〇〇〇〇 鈴木 英殿
- 〇〇〇〇 十二 徳二殿
- 〇〇〇〇 匿名殿
- 〇〇〇〇 星川 武殿
- 〇〇〇〇 木下 甫殿
- 〇〇〇〇 高野 庄平殿
- 〇〇〇〇 高橋 正吉殿
- 〇〇〇〇 竹内 政信殿
- 〇〇〇〇 土屋 太郎殿
- 〇〇〇〇 林 森一殿
- 〇〇〇〇 江藤 圭一殿
- 〇〇〇〇 鈴木辰太郎殿
- 〇〇〇〇 福田 吳子殿
- 〇〇〇〇 松平 永芳殿
- 〇〇〇〇 松丸 知行殿

北海道

- 五〇〇〇 兄 田村賢次郎
- 四〇〇〇 母 宮前ハツエ
- 三〇〇〇 母 金子 ぎよ
- 二〇〇〇 父 長沼長一郎
- 〇〇〇〇 妹 岩川あい子
- 〇〇〇〇 兄 黒沢 克己
- 〇〇〇〇 妻 白山光枝子
- 〇〇〇〇 妻 田村 ヨシ
- 〇〇〇〇 妻 野沢キクエ
- 〇〇〇〇 母 細川 きく
- 一〇〇〇〇 長女 伊藤 フジ
- 〇〇〇〇 父 犬伏 隆
- 〇〇〇〇 父 北村弥三郎
- 〇〇〇〇 妻 工藤 ハナ
- 〇〇〇〇 姉 伝福 ちゑ
- 〇〇〇〇 弟 下川与三郎
- 〇〇〇〇 妻 本堂 テフ
- 〇〇〇〇 母 渋谷 フミ
- 〇〇〇〇 母 蛭田 タケ
- 〇〇〇〇 母 藤田 キク
- 〇〇〇〇 妻 塚原 ハナ
- 〇〇〇〇 兄 荒谷美佐男
- 〇〇〇〇 妻 星川 クマ
- 〇〇〇〇 妻 桜井ステオ
- 〇〇〇〇 母 中山 リヨ
- 〇〇〇〇 妻 菅原 ヨリ

山形県

- 一〇〇〇〇 妻 大場美津子
- 一〇〇〇〇 妻 赤塚 正美
- 一〇〇〇〇 妻 丹野 アサ
- 一〇〇〇〇 妻 渡辺 ミノ
- 一〇〇〇〇 妻 小野田正一
- 二〇〇〇〇 弟 森 吉三
- 二〇〇〇〇 姉 富田 ミツ
- 二〇〇〇〇 妻 吉田 ハル
- 一〇〇〇〇 妻 石橋 節子
- 一〇〇〇〇 父 長谷川 潔
- 一〇〇〇〇 父 馬 嶺雄
- 一〇〇〇〇 兄 江尻 キヨ
- 一〇〇〇〇 姉 坂本 吾郎
- 一〇〇〇〇 妻 吉津ミドリ
- 一〇〇〇〇 長男若狭 明光
- 一〇〇〇〇 父 青柳 泰蔵
- 一〇〇〇〇 母 池田 ミイ
- 一〇〇〇〇 兄 今橋 ヒデ
- 一〇〇〇〇 母 遠峰 潔
- 一〇〇〇〇 母 宮内 はつ
- 一〇〇〇〇 母 植木 モト
- 一〇〇〇〇 母 永井 清
- 一〇〇〇〇 母 増渕カオル

群馬県

- 二〇〇〇〇 妻 澁沢謙次郎
- 一〇〇〇〇 母 森 ゆき江
- 一〇〇〇〇 兄 園部 重太
- 一〇〇〇〇 妻 山下 みつ
- 一〇〇〇〇 妻 小谷中せい
- 一〇〇〇〇 妻 藤田きよせ
- 一〇〇〇〇 妻 浅野 チカ
- 一〇〇〇〇 妻 福島 レイ
- 一〇〇〇〇 妻 岡安 長一
- 一〇〇〇〇 兄 小暮 長一
- 一〇〇〇〇 妻 菅井せい子
- 一〇〇〇〇 妻 長谷部なを
- 一〇〇〇〇 母 松岡ちやう
- 一〇〇〇〇 妻 毛利 しげ
- 一〇〇〇〇 姉 加瀬 よし
- 一〇〇〇〇 妻 星野千重子
- 一〇〇〇〇 妻 芳賀タツエ
- 一〇〇〇〇 妻 広原 ちよ
- 一〇〇〇〇 妻 天野 ちよ
- 一〇〇〇〇 妹 石川きみ子
- 一〇〇〇〇 父 谷沢 英子
- 一〇〇〇〇 妻 桑田 忠蔵
- 一〇〇〇〇 妻 鈴木 富貴子
- 一〇〇〇〇 妻 杉 富貴子

東京都

- 一〇〇〇〇 父 植木 豊子
- 一〇〇〇〇 妻 津久井艶子
- 一〇〇〇〇 弟 宮本 豊
- 一〇〇〇〇 妻 増田 しう
- 一〇〇〇〇 母 福田 とよ
- 一〇〇〇〇 妻 立原 てい
- 一〇〇〇〇 妻 倉田 イワ
- 一〇〇〇〇 妻 川間 つね
- 一〇〇〇〇 妻 及川 次郎
- 一〇〇〇〇 母 大木 まつ
- 一〇〇〇〇 弟 相川 孝夫
- 一〇〇〇〇 母 武田 とく
- 一〇〇〇〇 妻 横濱 福居
- 一〇〇〇〇 妻 浮田 信家
- 一〇〇〇〇 妻 小泉 文江
- 一〇〇〇〇 妻 荒井 福栄
- 一〇〇〇〇 妻 土岐 達雄
- 一〇〇〇〇 妻 大高 吉郎
- 一〇〇〇〇 妻 佐竹 エス
- 一〇〇〇〇 妻 井上 賀雄
- 一〇〇〇〇 妻 木村 久子
- 一〇〇〇〇 妻 国松ふみ江
- 一〇〇〇〇 妻 黒川 誠
- 一〇〇〇〇 妻 匿名 誠
- 一〇〇〇〇 母 橋口キクエ
- 一〇〇〇〇 母 林 春千代
- 一〇〇〇〇 母 水野 ハナ
- 一〇〇〇〇 妻 浄永 孝
- 一〇〇〇〇 母 吉田 いそ
- 一〇〇〇〇 弟 佐藤 宗丕
- 一〇〇〇〇 弟 齊藤 璋子
- 一〇〇〇〇 弟 萩原由利子
- 一〇〇〇〇 弟 萩原亥三郎
- 一〇〇〇〇 弟 間々田やす
- 一〇〇〇〇 妻 古賀織之助
- 一〇〇〇〇 父 助川与富子
- 一〇〇〇〇 母 古賀織之助
- 一〇〇〇〇 妻 助川与富子
- 一〇〇〇〇 妻 緑川 マキ

宮城県

- 一〇〇〇〇 妻 平形いせこ
- 一〇〇〇〇 兄 卯花要一郎
- 一〇〇〇〇 兄 松浦 広雄
- 一〇〇〇〇 妻 松木 孝子
- 一〇〇〇〇 父 宮原 康
- 一〇〇〇〇 妻 渡辺 雪子
- 一〇〇〇〇 母 熊谷サタヨ
- 一〇〇〇〇 姉 小室舜司郎
- 一〇〇〇〇 兄 佐野 敏子
- 一〇〇〇〇 兄 関山富一郎
- 一〇〇〇〇 妻 大宮 タツ
- 一〇〇〇〇 妻 大場美津子
- 一〇〇〇〇 妻 赤塚 正美
- 一〇〇〇〇 妻 丹野 アサ
- 一〇〇〇〇 妻 渡辺 ミノ
- 一〇〇〇〇 妻 小野田正一
- 一〇〇〇〇 弟 森 吉三
- 一〇〇〇〇 姉 富田 ミツ
- 一〇〇〇〇 妻 吉田 ハル
- 一〇〇〇〇 妻 石橋 節子
- 一〇〇〇〇 父 長谷川 潔
- 一〇〇〇〇 父 馬 嶺雄
- 一〇〇〇〇 兄 江尻 キヨ
- 一〇〇〇〇 姉 坂本 吾郎
- 一〇〇〇〇 妻 吉津ミドリ
- 一〇〇〇〇 長男若狭 明光
- 一〇〇〇〇 父 青柳 泰蔵
- 一〇〇〇〇 母 池田 ミイ
- 一〇〇〇〇 兄 今橋 ヒデ
- 一〇〇〇〇 母 遠峰 潔
- 一〇〇〇〇 母 宮内 はつ
- 一〇〇〇〇 母 植木 モト
- 一〇〇〇〇 母 永井 清
- 一〇〇〇〇 母 増渕カオル

茨城県

- 一〇〇〇〇 妻 大場美津子
- 一〇〇〇〇 妻 赤塚 正美
- 一〇〇〇〇 妻 丹野 アサ
- 一〇〇〇〇 妻 渡辺 ミノ
- 一〇〇〇〇 妻 小野田正一
- 一〇〇〇〇 弟 森 吉三
- 一〇〇〇〇 姉 富田 ミツ
- 一〇〇〇〇 妻 吉田 ハル
- 一〇〇〇〇 妻 石橋 節子
- 一〇〇〇〇 父 長谷川 潔
- 一〇〇〇〇 父 馬 嶺雄
- 一〇〇〇〇 兄 江尻 キヨ
- 一〇〇〇〇 姉 坂本 吾郎
- 一〇〇〇〇 妻 吉津ミドリ
- 一〇〇〇〇 長男若狭 明光
- 一〇〇〇〇 父 青柳 泰蔵
- 一〇〇〇〇 母 池田 ミイ
- 一〇〇〇〇 兄 今橋 ヒデ
- 一〇〇〇〇 母 遠峰 潔
- 一〇〇〇〇 母 宮内 はつ
- 一〇〇〇〇 母 植木 モト
- 一〇〇〇〇 母 永井 清
- 一〇〇〇〇 母 増渕カオル

栃木県

- 一〇〇〇〇 妻 澁沢謙次郎
- 一〇〇〇〇 母 森 ゆき江
- 一〇〇〇〇 兄 園部 重太
- 一〇〇〇〇 妻 山下 みつ
- 一〇〇〇〇 妻 小谷中せい
- 一〇〇〇〇 妻 藤田きよせ
- 一〇〇〇〇 妻 浅野 チカ
- 一〇〇〇〇 妻 福島 レイ
- 一〇〇〇〇 妻 岡安 長一
- 一〇〇〇〇 兄 小暮 長一
- 一〇〇〇〇 妻 菅井せい子
- 一〇〇〇〇 妻 長谷部なを
- 一〇〇〇〇 母 松岡ちやう
- 一〇〇〇〇 妻 毛利 しげ
- 一〇〇〇〇 姉 加瀬 よし
- 一〇〇〇〇 妻 星野千重子
- 一〇〇〇〇 妻 芳賀タツエ
- 一〇〇〇〇 妻 広原 ちよ
- 一〇〇〇〇 妻 天野 ちよ
- 一〇〇〇〇 妹 石川きみ子
- 一〇〇〇〇 父 谷沢 英子
- 一〇〇〇〇 妻 桑田 忠蔵
- 一〇〇〇〇 妻 鈴木 富貴子
- 一〇〇〇〇 妻 杉 富貴子

千葉県

- 一〇〇〇〇 妻 澁沢謙次郎
- 一〇〇〇〇 母 森 ゆき江
- 一〇〇〇〇 兄 園部 重太
- 一〇〇〇〇 妻 山下 みつ
- 一〇〇〇〇 妻 小谷中せい
- 一〇〇〇〇 妻 藤田きよせ
- 一〇〇〇〇 妻 浅野 チカ
- 一〇〇〇〇 妻 福島 レイ
- 一〇〇〇〇 妻 岡安 長一
- 一〇〇〇〇 兄 小暮 長一
- 一〇〇〇〇 妻 菅井せい子
- 一〇〇〇〇 妻 長谷部なを
- 一〇〇〇〇 母 松岡ちやう
- 一〇〇〇〇 妻 毛利 しげ
- 一〇〇〇〇 姉 加瀬 よし
- 一〇〇〇〇 妻 星野千重子
- 一〇〇〇〇 妻 芳賀タツエ
- 一〇〇〇〇 妻 広原 ちよ
- 一〇〇〇〇 妻 天野 ちよ
- 一〇〇〇〇 妹 石川きみ子
- 一〇〇〇〇 父 谷沢 英子
- 一〇〇〇〇 妻 桑田 忠蔵
- 一〇〇〇〇 妻 鈴木 富貴子
- 一〇〇〇〇 妻 杉 富貴子

◇広島県										◇岡山県										◇島根県										◇鳥取県										◇和歌山県																			
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
妻	妻	父	父	妻	妻	兄	妻	妻	母	母	妻	妻	父	母	妹	妻	母	妻	妻	妻	妹	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	妻	父	弟	父	弟	父	弟	父	弟	父
久保サクノ	川西シヅコ	大上八重子	石本新一	浜本米一	小林アヤ子	浦手春	石田史郎	荒谷ミキエ	原シズエ	江坂富子	植田操	本田晴恵	中島清子	宇山アサ	山下政市	金崎イマヨ	杉川及江	松下綾	伊瀬ナヲ	園山和子	藤原照子	井上照美	山中フジ	福井栄子	山野イクエ	藤田しげ	沢田寿子	内馬あや	林いち	岡本くま	清水つちゑ	土屋トミエ	瀬川英治	枝光剛郎																									
◇愛媛県										◇香川県										◇徳島県										◇山口県																													
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃										
妻	妻	父	父	妻	妻	母	妻	父	妻	妻	父	妻	父	妻	次男	長男	母	母	母	母	兄	父	父	母	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	母	兄	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻										
小西アキヨ	久保田泰子	久保田春三	長岡泰三	伊藤梅子	三好勝子	清水朝美	松木ミチル	松原ニキエ	久森俊一	多田トシ子	富田トシ子	村上忠太郎	石田藤美	石川正興	田中ヤスエ	秋山正清	奥田マス	野田好美	峰野英男	栗本孝一	隣フシノ	矢次富	福谷幸子	広田通男	道源ヒサ	内富みつゑ	嶋田チヨ	坂本ヤスエ	松本タカミ	藤本カメヨ	行内ヤチヨ	寺内ヤチヨ	田口マサコ																										
◇福岡県										◇高知県										◇佐賀県																																							
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃																				
妻	父	父	兄	母	母	妻	妻	母	父	母	母	母	母	兄	妻	弟	母	母	兄	母	妻	母	母	父	父	妻	妻	妻	兄	母	母	母	母	母	母	母	母	母																					
秦サカネ	杉山柳平	坂野顯義	小野キク	片山キク	大坪チトエ	岩崎進	深川芙蓉	近藤シズエ	倉智トモ	鐘ケ江弘	緒方ミサヲ	下釜春江	河崎ヒモ	富安一喜	甲斐光	西原康雄	家迫ソヲ	山家マキ	藤原晴敏	野島豊	徳弘萩子	河野里美	久保久米寿	馬場福義	松浦正信	近森幸恵	田中百合	小松千代美	渡辺義雄	松友郁	福岡忠幸	宅見クマ	井原トヨ	山本峯子																									
◇熊本県										◇長崎県										◇大分県																																							
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃																					
妻	妹	妻	妻	長男	妻	母	母	長女	妻	妻	妻	妻	妻	母	父	妻	兄	母	妻	父	妻	母	妻	母	妻	兄	母	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	父	母	母	母	母	母	母	母	母	母															
井上静恵	村上佳寿子	大宮誠子	植村芳恵	小山幸治	横山アヤ子	山口トモ	大野美穂子	福田音和	平田利子	林文枝	田村幸夫	佐木幸夫	小林ミツ	板浦弥一郎	前田光次	中村光次	安達シツヨ	松尾フサ	石田タマ	吉原徳平	中山時野	田中ノエ	犬山タツノ	山田雪子	坂本トセ	金子セノ	大串キサ	井手ツギヨ	原口ミヤ	宮崎トモ	八谷賢	石田トシ	森田伊助																										
◇鹿児島県										◇宮崎県																																																	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃																					
姉	妻	妻	妻	妻	妻	長男	妻	兄	叔父	妹	妹	母	長女	妻	母	母	母	妻	父	妻	妻	妻	妻	妻	父	妻	母	長女	妻	弟	妻	妻	妻	兄	妻																								
今釜ツル	吉永ハルミ	徳重ミツ子	川畑トルユ	丸田キワ	村上ノキ	高崎アイ	和田芳久	村上ノキ	高崎アイ	衛藤金喜	丹下周市	小川さん	石塚文子	野塚良子	野別ヒナ	杉田ヨシノ	長尾ミチ子	高橋東子	土工あぐり	児玉チン	稲留通秋	池田トミ	山口マサ子	森フサエ	平野芳太郎	片山喜久枝	田上スマ	篠原弘子	桑野サナエ	鹿島サク	大木良喜	内田オサエ	今村コメ	寺本ミドリ	塚野ヨシ子	北村権蔵	勝木ユリエ																						

事務局だより

○新幹事の紹介

会長 浮田 信家

本会々員 兵庫県 柴崎 晃様に幹事就任をお願い致しました所御快諾を得ましたので六月二十日附幹事に指名、本会の充実・発展のため御活躍を願う事に致しました。

御紹介いたします。

同氏の御尊父柴崎恵次様はタラワ島玉碎の折御戦死。昨年11月現地慰霊に行かれた方です。

ナワル
タワラ
マキン

現地慰霊に関し、同島関係の

各位には別紙色刷のちらしも入れました。同島の方はお見落しないうちにお願いたします。

○戦記シリーズについて

本会が創立のとき林幸市様、松平永芳様、長谷川敏様の御執筆によって作られた「クエゼリン島の今と昔」は、当時クエゼリンはおるかマーシャル、内南洋、ギルバートという言葉にも疎い、私達に暗夜の灯のように肉親の戦死場所を身近に感じさせた。このため初版は間もなく品切れとなりあと希望者が相次いだ、第二版を印刷する部数には達しないまま時が過ぎ昭和49年に至った。このため昭和50年1月(22号)から毎号の環礁に「戦記シリーズ」を設け、これに転載することとし、26号をもってこの転載も終了した。茲に重ねて執筆して下さい三先生に対し深甚の御礼を申し上げます。

○靖国神社みたま祭と大型献灯

毎年のことですが、今年も本会名を大書した大型献灯を靖国神社社頭に掲げました。7月13日から16日まで毎日午後六時から祭典が行われ又社頭の献灯はあかあかと靖国の夜空を照らし、英霊をお慰めしています。

○浜木綿だより

かねてお約束のとおり、球根は一月以来28人の方々にお届けしました。皆様から大変喜ばれ沢山のお便りをいただきました。今年花が咲いたという方は二人だけでしたが、今夏充分育てていただいたら来年はもっと朗報がいただけると思います。

本部の球根は次から次に増えております。御希望の方はいつでもお申込み下さい。お送りいたします。

岩手 小杉サヨ様から

幸い私宅ではナメコ栽培をしておりまして冬でも最低温度5度にして育てますので、何とか凍らせないように育てられると思います。うまく育てて真のような花を咲かせ、お望みの方にわけて上げられるよう、愛情をこめて育てます。育てた上持参して靖国神社に参拝したいとがんばります。

熊本 寺本ミドリ様から

今日は私共の熊本市日吉校区の遺族会総会に参加し帰宅いたしましたら、お心づくしの浜木綿の球根がとどいていました。今年には主人と子供の三十三回忌、五月に仏事を行いたいと心づも

りをしておりました矢先、南方の浜木綿を植えますこと、何かしら目に見えない縁の糸につながって居るような心地がいたします。大事に育て球根がふえたらお入用の方にお分けしたいと思います。

埼玉 大野とみ子様から

猫柳の芽も吹き初め、そここに菫や蒲公英の花が色鮮かに咲いておりますお彼岸もお天気に恵まれ墓参する人や野原に憩を求める人達で賑やかでございます。過日は浜木綿の球根並びに写真までお送り下され有難うございました。早速植えさせていたいただきました。紅橙色の花の便りが一日も早く出来ませう大切に育てたいと思っております。

外15名の方からお便り頂きましたが、紙面の都合で掲載できず、お詫び申し上げます。

本 部

郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)四四四〇〇番